

## 7. 定期点検

### 3. 各部オイルの点検・交換のしかた

古くなったオイルは、機械の性能を落とすだけでなく、故障の原因にもなります。定期的に古いオイルを抜き取り、新しいオイルを規定量給油してください。

#### 重要

●油漏れ等しているときは、販売店または整備工場での点検、整備を受けてください。

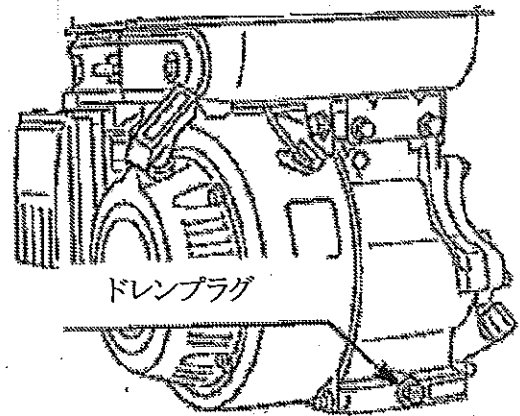
#### エンジンオイルの点検・交換の仕方

##### 点検

給油口の蓋を外して、検油ゲージの先端をきれいに拭き、ねじ込んだ状態で差し込み、再び抜いて検油ゲージの先端より上にオイルがあるか調べます。

##### 交換

ドレンプラグを外し、給油口の蓋をエンジンオイルが吹き出さないように、少しずつ加減をしながら緩め、汚れたオイルを流しだし、こぼさないように容器に受けてください。給油は、給油口より検油ゲージの規定量（0.6ℓ）まで入れてください。



#### 重要

- オイルの量は、エンジンを停止して調べてください。
- エンジンオイルは、SE級以上を給油してください。
- 給油する時は、本機を必ず水平にしておこなってください。
- エンジンが熱いうちはおこなわないでください。
- 熱いオイルが体に掛かると火傷するおそれがあります。
- エンジンが温かいうちに抜くと容易に抜くことができます。
- エンジンオイルを抜く時に、給油口の蓋を外すとエンジンオイルが吹き出し、衣服等を汚すおそれがあります。
- 給油するオイルは、必ず規定のオイルを使用してください。
- オイルの点検・交換作業後は、ドレンプラグや給油口の蓋は確実に締め付けてください。

#### 推奨エンジンオイル

- 夏期(20℃以上).....SAE 30
- 春・秋期(10℃～20℃)..... SAE 20
- 冬期(10℃以下).....SAE 10W-30

## 7. 定期点検

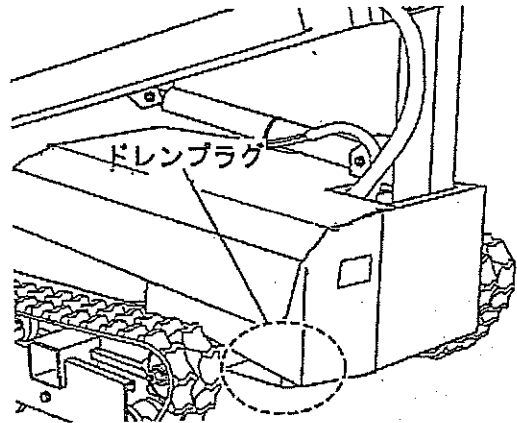
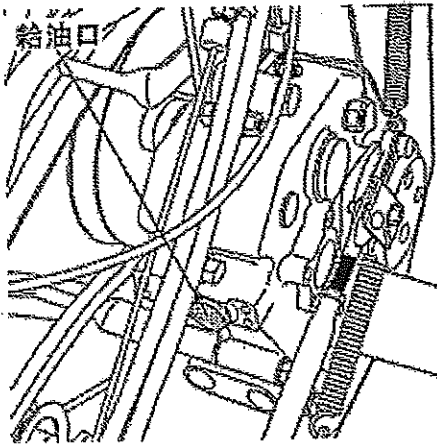
### 4. 走行ミッションオイルの点検・交換の仕方

#### 点検

油漏れのないことを調べてください。

#### 交換

走行ミッションケースの下部にあるドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出し、こぼさないように容器に受けてください。給油は、規定量(0. 6ℓ)入れてください。



#### 重要

- 走行ミッションオイルが暖かいうちに抜くと、容易に抜く事ができます。
- ミッションオイルは、ギヤーオイル 90番 を給油してください。

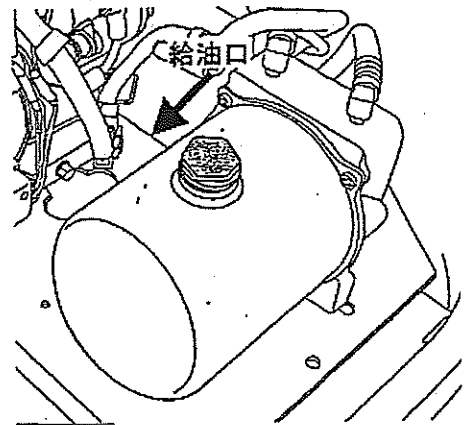
### 5. 油圧オイルの点検・交換の仕方

#### 点検

油漏れのないことを調べてください。

#### 交換

油圧パッケージのオイルタンクを外し、汚れたオイルを流し出します。給油量は、1. 6ℓ 入れてください。



#### 重要

- 油圧パッケージオイルは、ISO VG68 (寒冷地ではVG32)相当粘度のオイルを給油してください。
- 適正量は、シリンダーを縮めた状態で油面が給油口から下、約50~60 mm の位置です。
- 給油を1回行うと長期間使用できますが、油量が少なくなるとエアを吸い、シリンダーの作動が悪くなるので100時間毎に油量の点検をおこなってください。
- 作動油は劣化しますので、300時間毎にオイルの交換をおこなってください。
- 作動油の交換は必ず新油を使用の上、ゴミ等を混入させないように給油をしてください。
- シリンダーを作動させると最初はエアが入ってノックすることがありますが、2~3回繰り返すと良くなります。
- パッケージへの直接散水洗浄は水が混入して故障の原因になりますので避けてください。